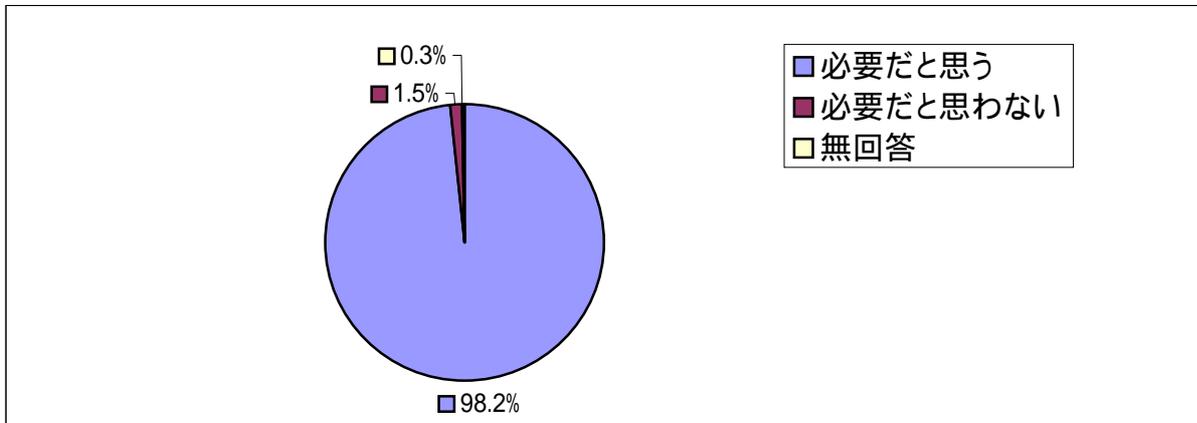


## 安心して暮らせるまちづくりについてお尋ねします

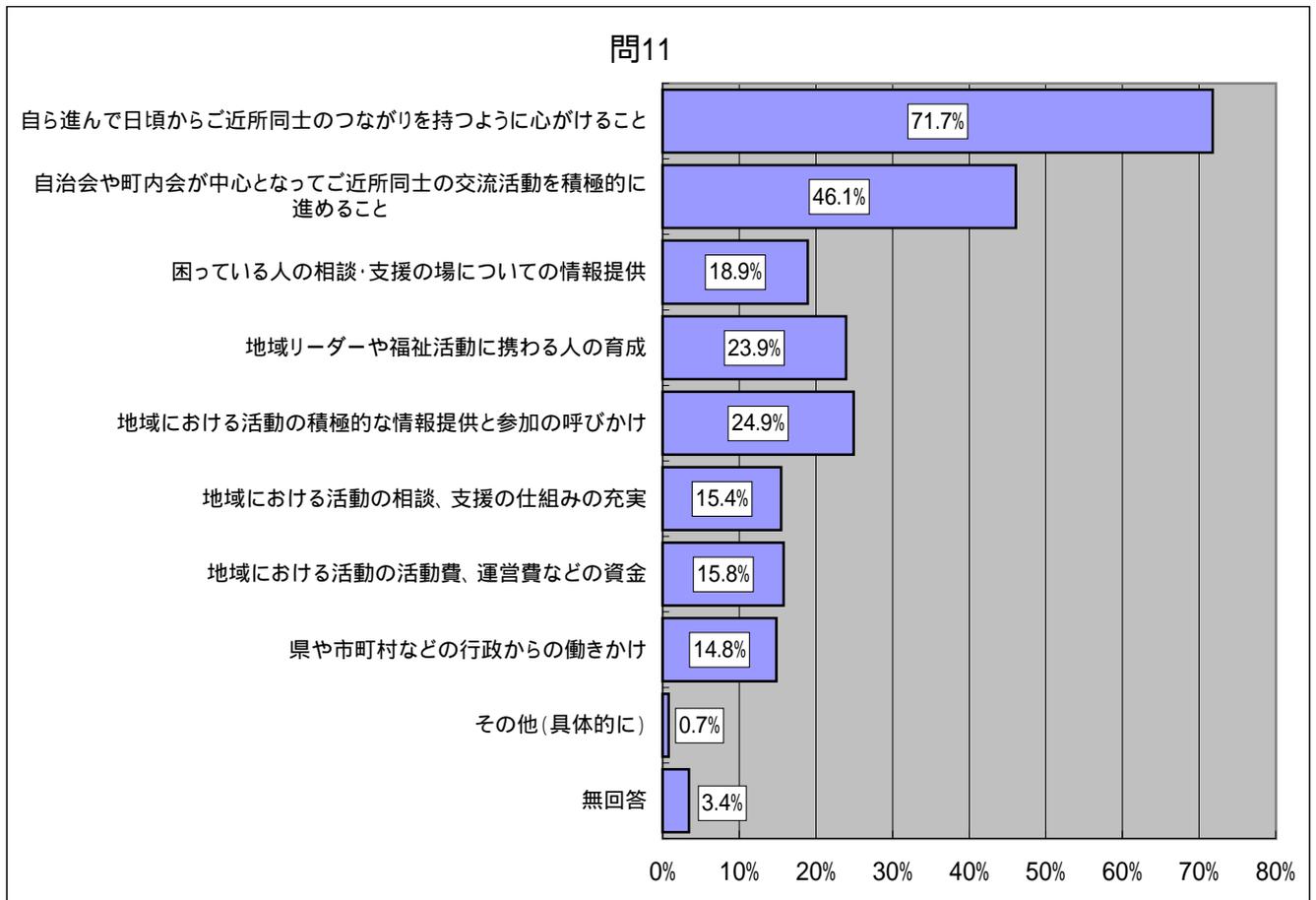
問10 地域で安心して暮らしていくためには、ご近所同士の助け合いが必要だと思いますか



地域で安心して生活するためには、近隣の助け合いが必要だと考えている者が全体の9割以上を占めています。

問11 ご近所同士の助け合いを活発にするには、どのようなことが必要だと思いますか  
(3つ以内)

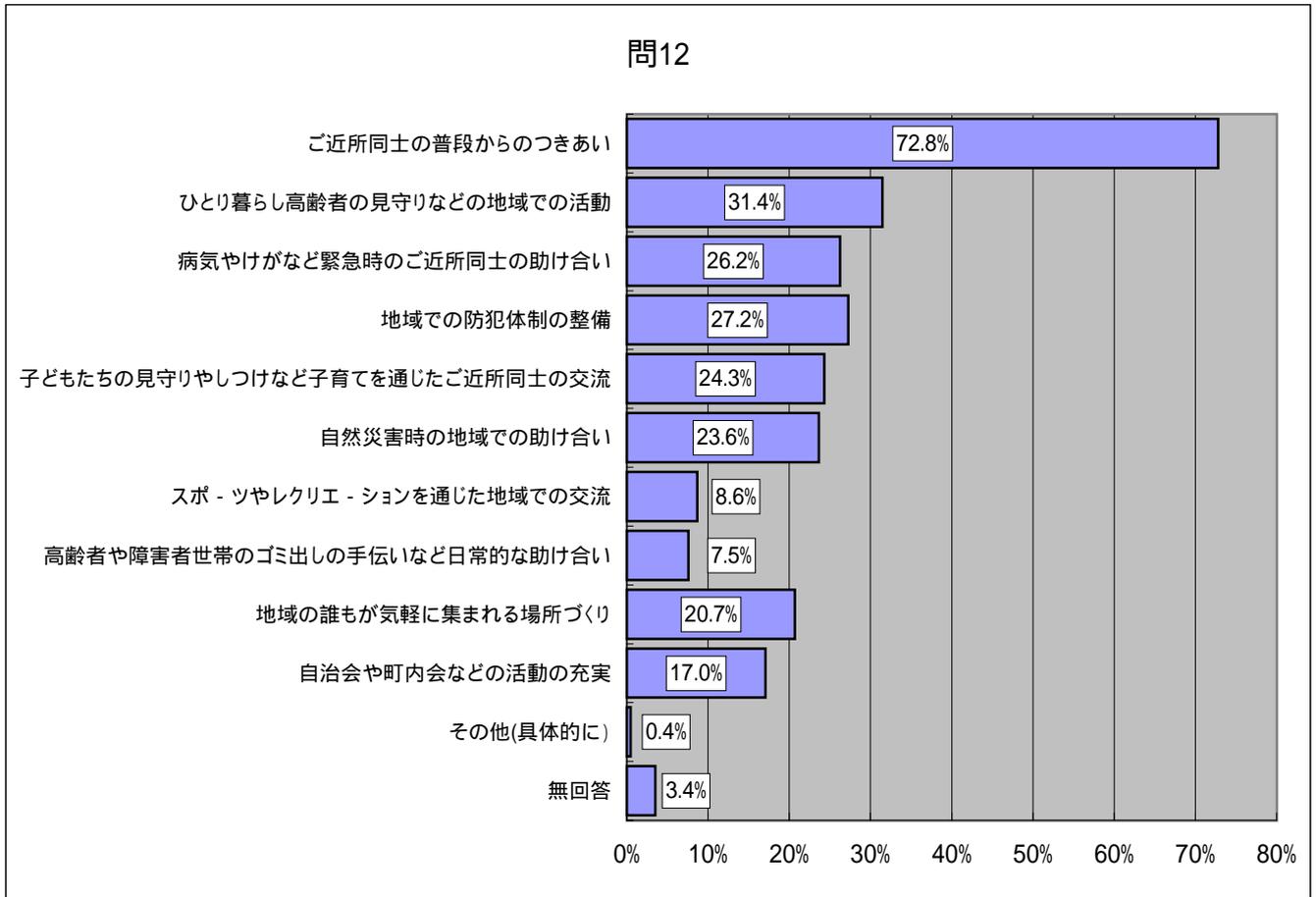
(有効回答者数：4,440人)



ご近所同士の助け合いを活発にするために必要だと思われることは「自ら進んで日頃からご近所同士のつながりを持つように心がけること」が71.7%と最も高く、以下「自治会や町内会が中心となってご近所同士の交流活動を積極的に進めること」(46.1%)、「地域における活動の積極的な情報提供と参加の呼びかけ」(24.9%)、「地域リーダーや福祉活動に携わる人の育成」(23.9%)の順となっています。

問12 安心して暮らしていくには、どのようなことが大切だと思いますか（3つ以内）

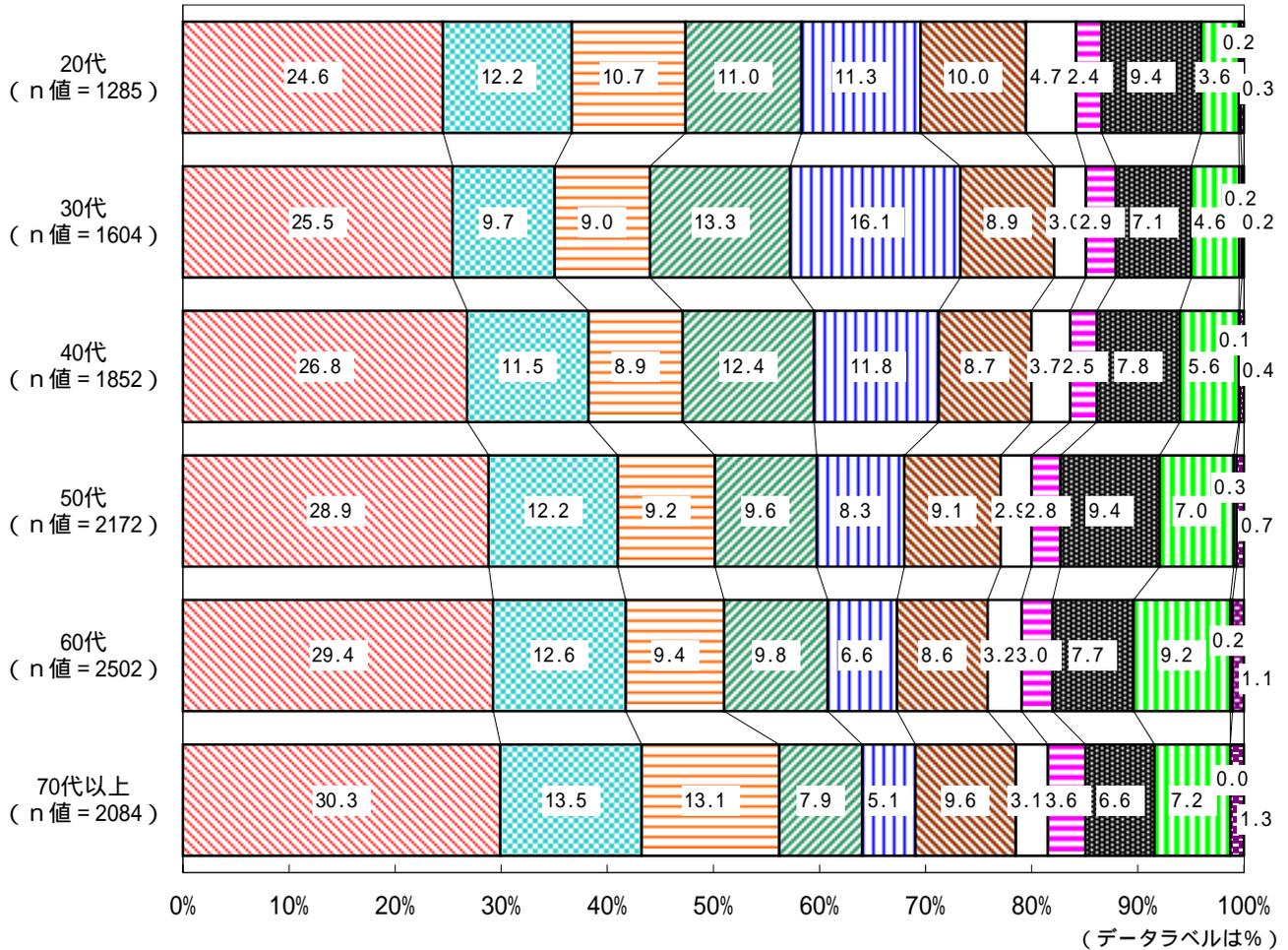
（有効回答者数：4,440人）



安心して暮らしていくために必要だと思われることは「ご近所同士の普段からのつきあい」が72.8%と最も高く、以下「ひとり暮らし高齢者の見守りなどの地域での活動」（31.4%）、「地域での防犯体制の整備」（27.2%）、「病気やけがなど緊急時のご近所同士の助け合い」（26.2%）の順となっています。

〔年齢階層別〕（有効回答数：11,499件）

年齢：問12：安心して暮らしていくには、どのようなことが大切だと思いますか



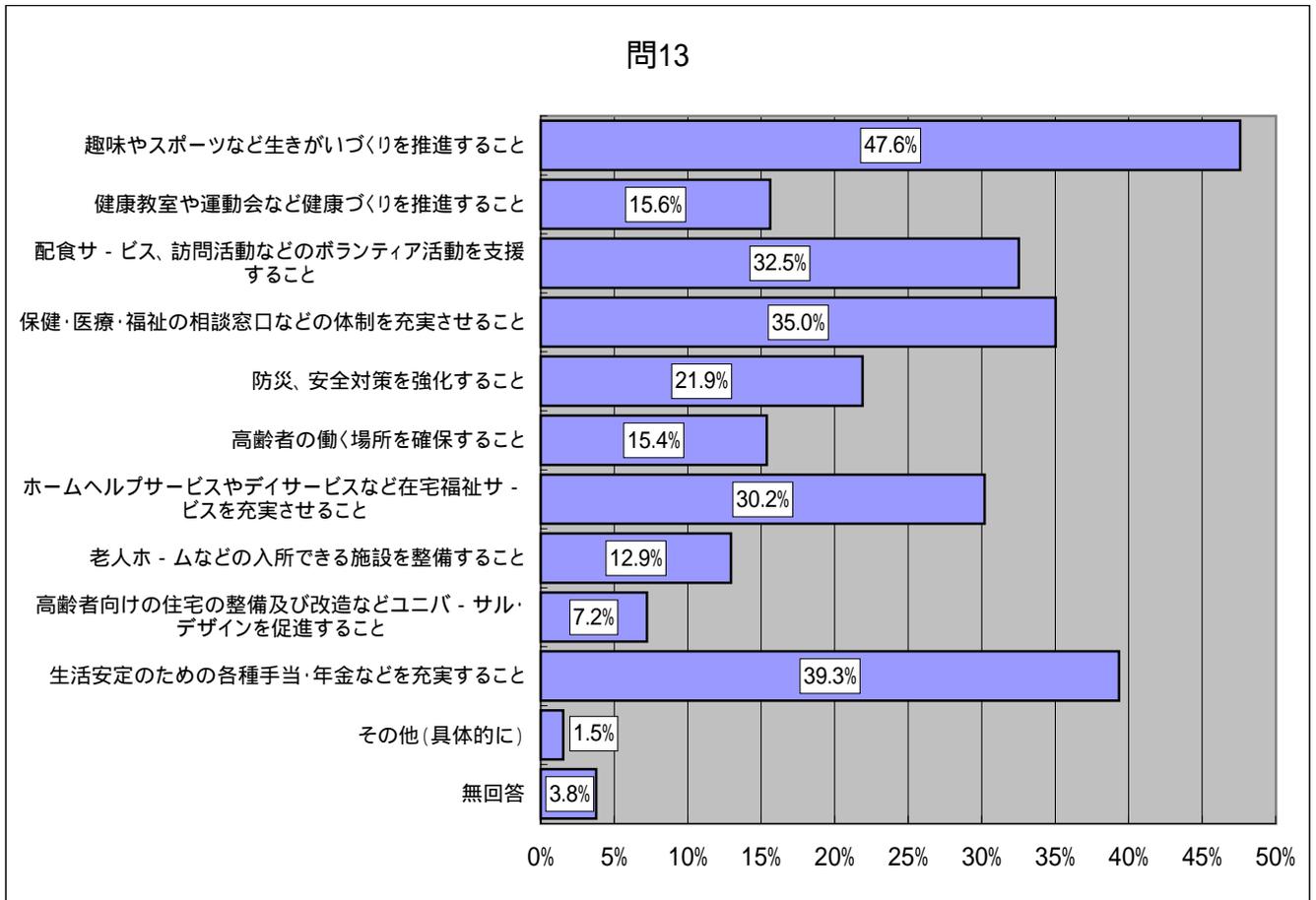
- ご近所同士の普段からのつきあい
- ひとり暮らし高齢者の見守りなどの地域での活動
- 病気やけがなど緊急時のご近所同士の助け合い
- 地域での防犯体制の整備
- 子どもたちの見守りやしつけなど子育てを通じたご近所同士の交流
- 自然災害時の地域での助け合い
- スポ・ツやレクリエ・ションを通じた地域での交流
- 高齢者や障害者世帯のゴミ出しの手伝いなど日常的な助け合い
- 地域の誰もが気軽に集まれる場所づくり
- 自治会や町内会などの活動の充実
- その他(具体的に)
- 無効

年齢階層別にみても、年齢階層が上がるにつれ「ご近所同士の普段からのつきあい」の割合が高くなっており、日頃のつながりを重視していることが伺えます。

また、子育て層である30代では「地域での防犯体制の整備」「子どもたちの見守りやしつけなど子育てを通じたご近所同士の交流」の割合が他の年齢階層に比べて高くなっており、子どもをねらった犯罪が多くなっていることなど、子どもを取り巻く環境の変化を敏感に感じ取っていることが伺えます。

問13 高齢者の暮らしやすいまちをつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか（3つ以内）

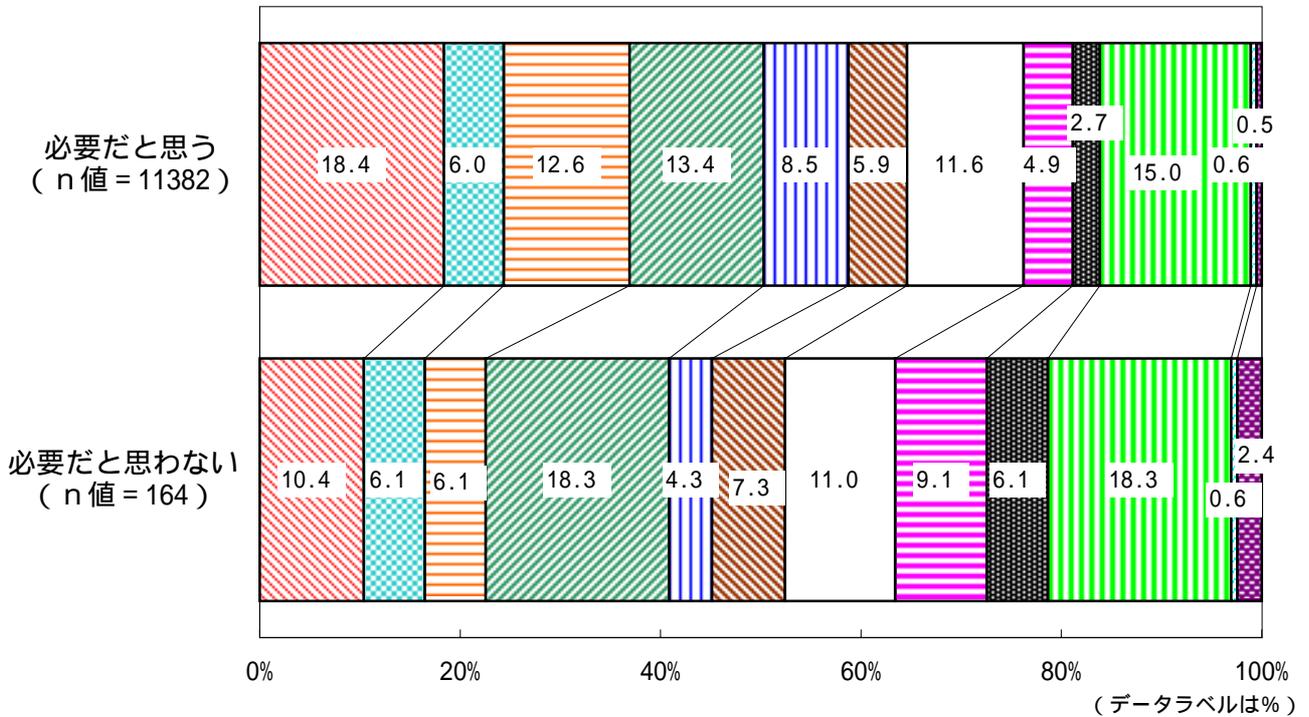
（有効回答者数：4,440人）



高齢者の暮らしやすいまちをつくるために必要なことは「趣味やスポーツなど生きがいづくりを推進すること」が47.6%と最も高く、以下「生活安定のための各種手当・年金などを充実すること」（39.3%）、「保健・医療・福祉の相談窓口などの体制を充実させること」（35.0%）、「配食サービス、訪問活動などのボランティア活動を支援すること」（32.5%）、「ホームヘルプサービスやデイサービスなど在宅福祉サービスを充実させること」（30.2%）の順となっています。

〔問10とのクロス〕（有効回答数：11,546件）

問10：地域で安心して暮らしていくためには、ご近所同士の助け合いが必要だと思いますか：問13：高齢者の暮らしやすいまちをつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか

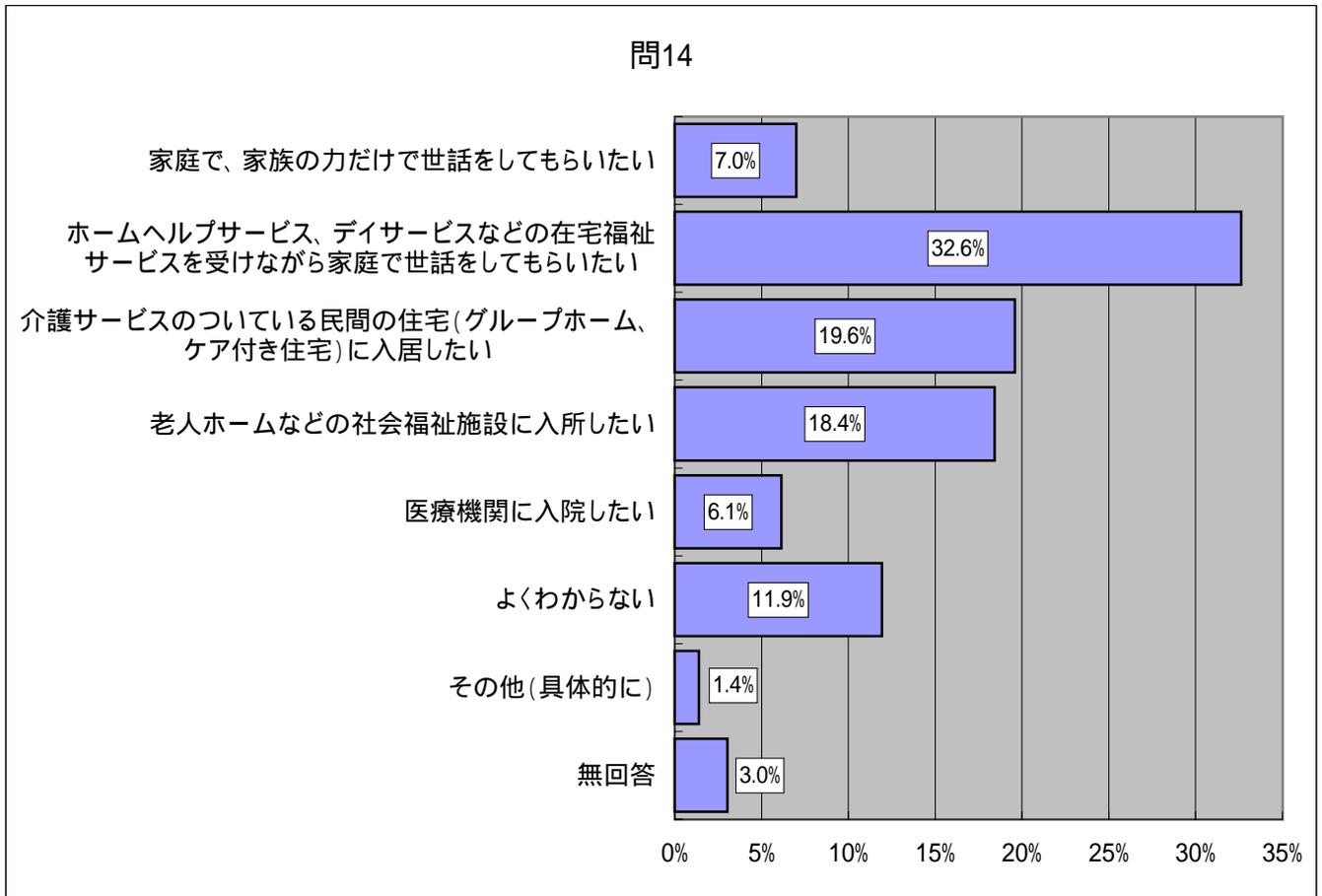


- 趣味やスポーツなど生きがいを推進すること
- 健康教室や運動会など健康づくりを推進すること
- 配食サービス、訪問活動などのボランティア活動を支援すること
- 保健・医療・福祉の相談窓口などの体制を充実させること
- 防災、安全対策を強化すること
- 高齢者の働く場所を確保すること
- ホームヘルプサービスやデイサービスなど在宅福祉サービスを充実させること
- 老人ホームなどの入所できる施設を整備すること
- 高齢者向けの住宅の整備及び改造などユニバーサル・デザインを促進すること
- 生活安定のための各種手当・年金などを充実すること
- その他（具体的に）
- 無効

問10の調査結果からみると、ご近所同士の助け合いが必要だと思うと答えた方は「趣味やスポーツなど生きがいを推進すること」「配食サービス、訪問活動などのボランティア活動を支援すること」の割合が高いのに対し、必要だと思わないと答えた方は「保健・医療・福祉の相談窓口などの体制を充実させること」「生活安定のための各種手当・年金などを充実すること」の割合が高くなっています。

このことから、地域での支え合いが必要だと思う人は、インフォーマルな支援を求め、必要でないと思っている人は、フォーマルな支援を求めていることが伺えます。

問14 将来、寝たきりや認知症（痴呆症）になった場合、どのようにしたいですか（1つだけ）

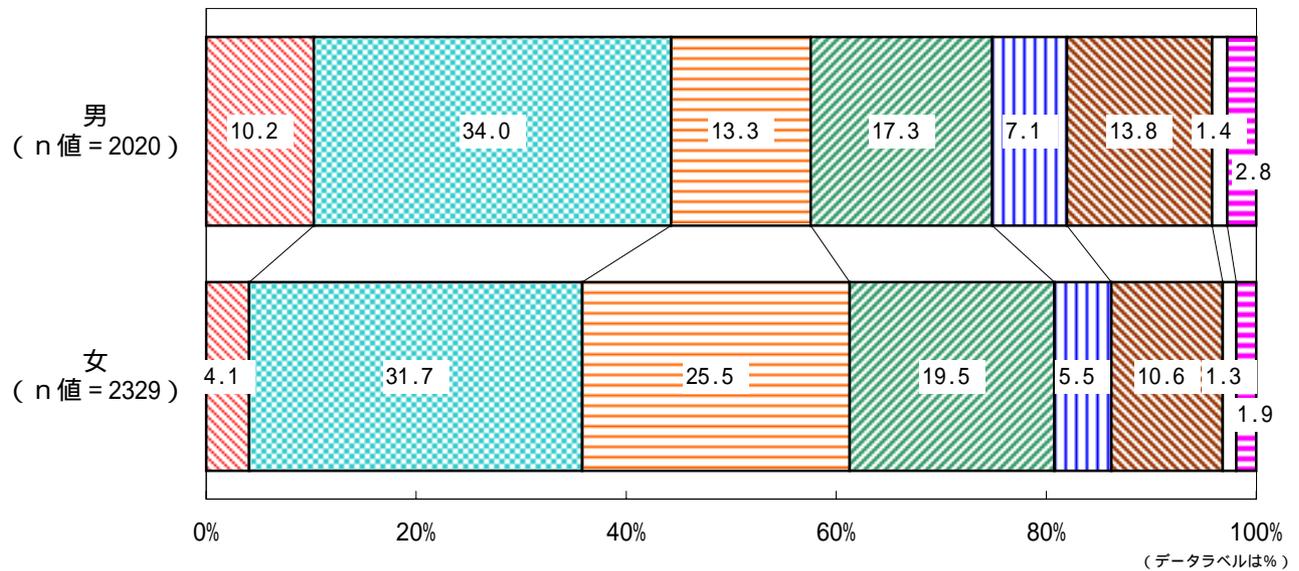


寝たきりや認知症になった場合の支援として「ホームヘルプサービス、デイサービスなどの在宅福祉サービスを受けながら家族で世話をしてもらいたい」が32.6%で最も高く、次いで「介護サービスのついている民間の住宅（グループホーム、ケア付き住宅）に住居したい」が19.6%、「老人ホームなどの社会福祉施設に入所したい」が18.4%と続いています。

また、その他意見の中には、寝たきりや認知症に対する不安が読み取れる意見も多くあります。

〔性別〕（有効回答数：4,349件）

表側：性別 表頭：問14：将来、寝たきりや認知症（痴呆症）になった場合、どのようにしたいですか



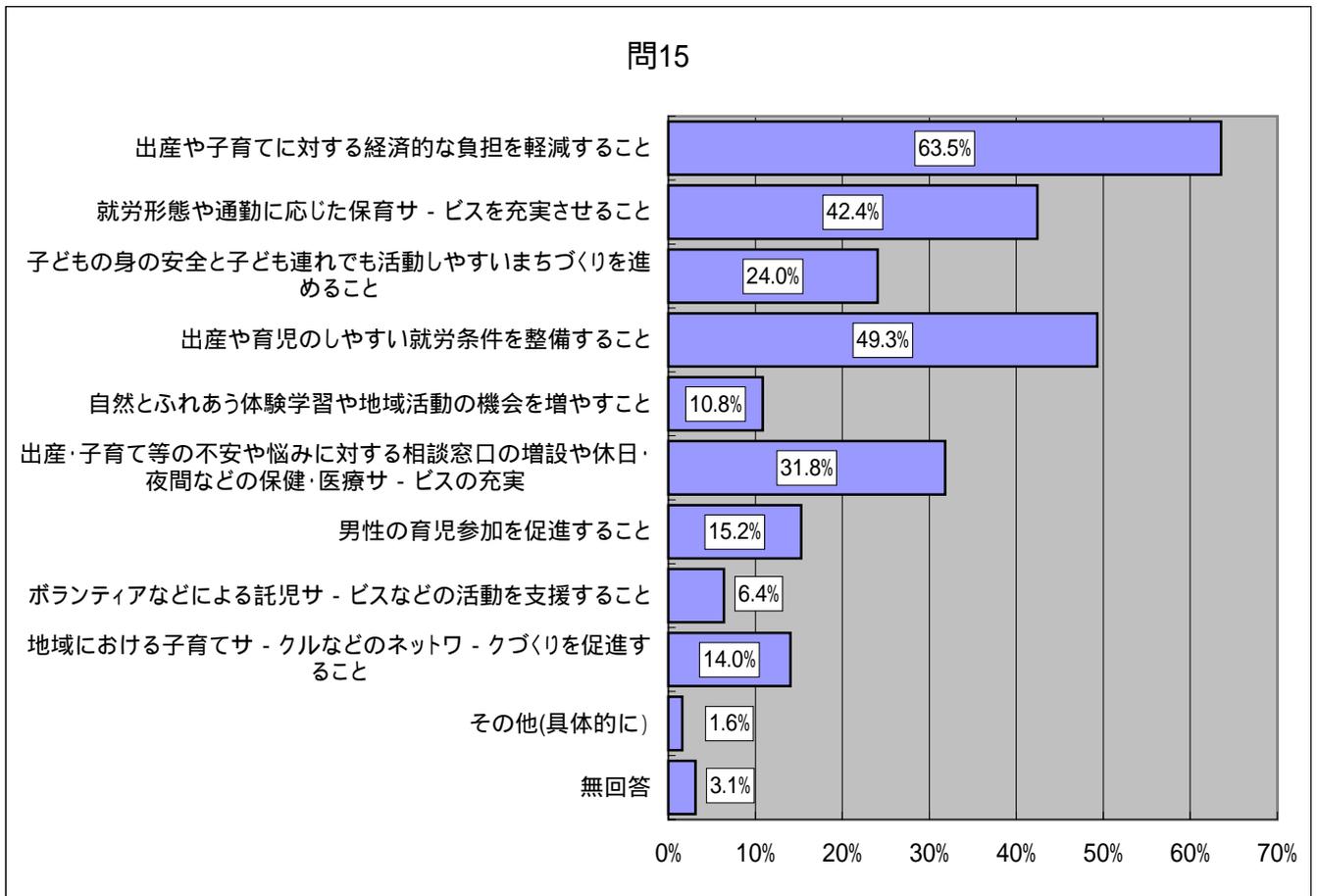
- 家庭で、家族の力だけで世話をしてもらいたい
- ホームヘルプサービス、デイサービスなどの在宅福祉サービスを受けながら家庭で世話をしてもらいたい
- 介護サービスのついている民間の住宅（グループホーム、ケア付き住宅）に入居したい
- 老人ホームなどの社会福祉施設に入所したい
- 医療機関に入院したい
- よくわからない
- その他（具体的に）
- 無効

性別区分でみると、男性は「家庭で、家族の力だけで世話をしてもらいたい」の割合が高いのに対し、女性は「介護サービスのついている民間の住宅（グループホーム、ケア付き住宅）に入居したい」の割合が高くなっています。

このことから、女性は男性に比べて介護に対する負担感が高いことが読み取れ、自身に介護が必要となった場合には、グループホームなどの利用を望んでいる人が多いことが伺えます。

問15 安心して子どもを健やかに産み育てていくためには、どのようなことが必要だと思いますか（3つ以内）

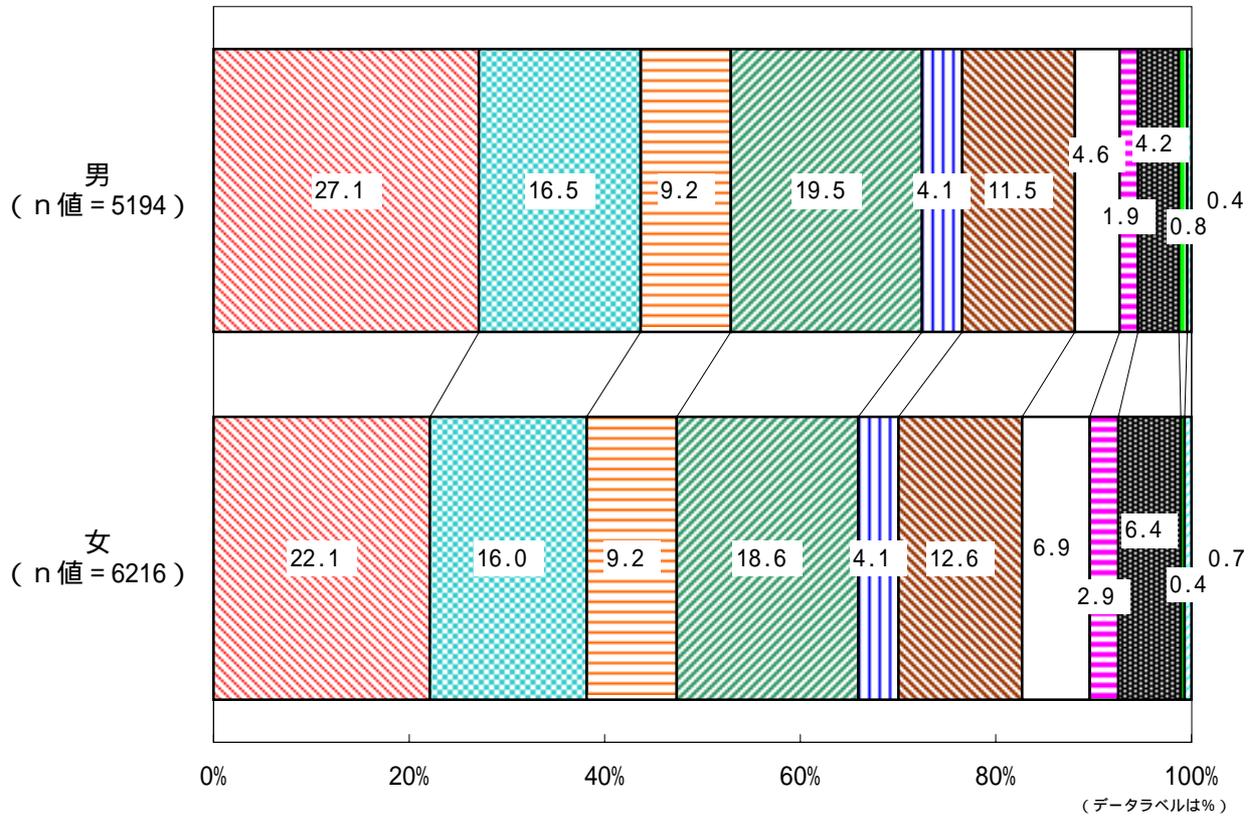
（有効回答者数：4,440人）



子育てに必要な支援として「出産や子育てに対する経済的な負担を軽減すること」が63.5%で最も高く、次いで「出産や育児のしやすい就労条件を整備すること」が49.3%、「就労形態や通勤に応じた保育サ - ビスを充実させること」が42.4%と続いています。

〔性別〕（有効回答数：11,410件）

性別：問15：安心して子どもを健やかに産み育てていくためには、  
どのようなことが必要だと思いますか



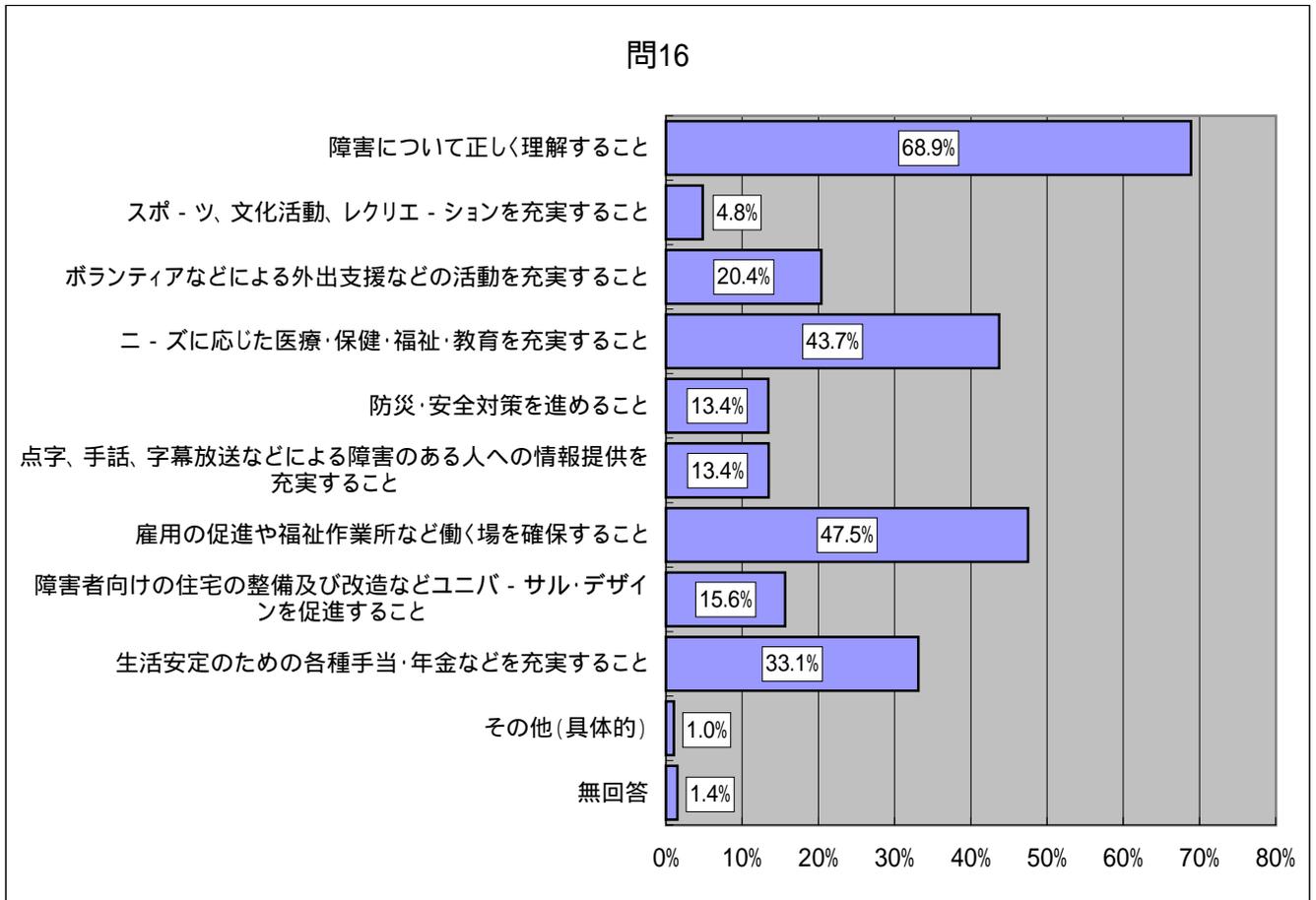
- 出産や子育てに対する経済的な負担を軽減すること
- 就労形態や通勤に応じた保育サービスを充実させること
- 子どもの身の安全と子ども連れでも活動しやすいまちづくりを進めること
- 出産や育児のしやすい就労条件を整備すること
- 自然とふれあう体験学習や地域活動の機会を増やすこと
- 出産・子育て等の不安や悩みに対する相談窓口の増設や休日・夜間などの保健・医療サービスの充実
- 男性の育児参加を促進すること
- ボランティアなどによる託児サービスなどの活動を支援すること
- 地域における子育てサークルなどのネットワークづくりを促進すること
- その他(具体的に)
- 無効

性別区分でみると、男性は「出産や子育てに対する経済的な負担を軽減すること」の割合が高いのに対し、女性は「男性の育児参加を促進すること」「地域における子育てサークルなどのネットワークづくりを促進すること」の割合が高くなっています。

このことから、男性の方が経済面での不安を感じているのに対し、女性の方が育児そのものに対して、不安・負担を感じていることが読み取れ、男性が育児参加しやすい環境の整備、相談しやすい場所（周囲の手助け）を望んでいることが伺えます。

問16 障害のある人の暮らしやすいまちをつくるには、どのようなことが大切だと思いますか（3つ以内）

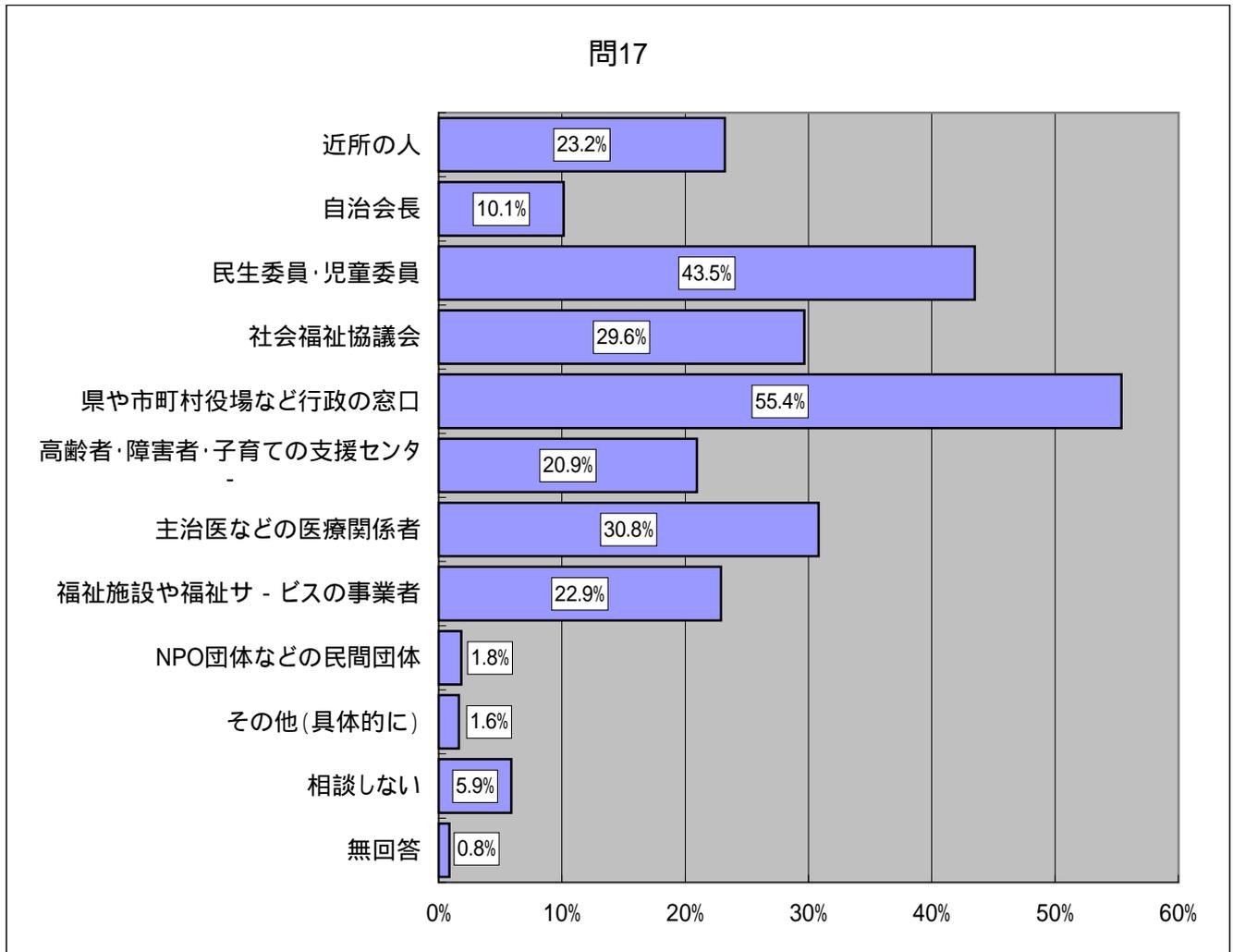
（有効回答者数：4,440人）



障害のある人の暮らしやすいまちをつくるために大切だと思われることは「障害について正しく理解すること」が68.9%と最も高く、以下「雇用の促進や福祉作業所など働く場を確保すること」が47.5%、「ニーズに応じた医療・保健・福祉・教育を充実すること」が43.7%と続いています。各種手当や制度の充実より、雇用の促進や働く場を確保することが支持されたことから、障害のある人の経済的な自立や生活の場の広がりの方が大切だと考える人が多くいることが伺えます。

問17 福祉の問題で気がかりなことがある場合、家族や友人以外で誰に相談しますか（あてはまるものすべて）

（有効回答者数：4,440人）



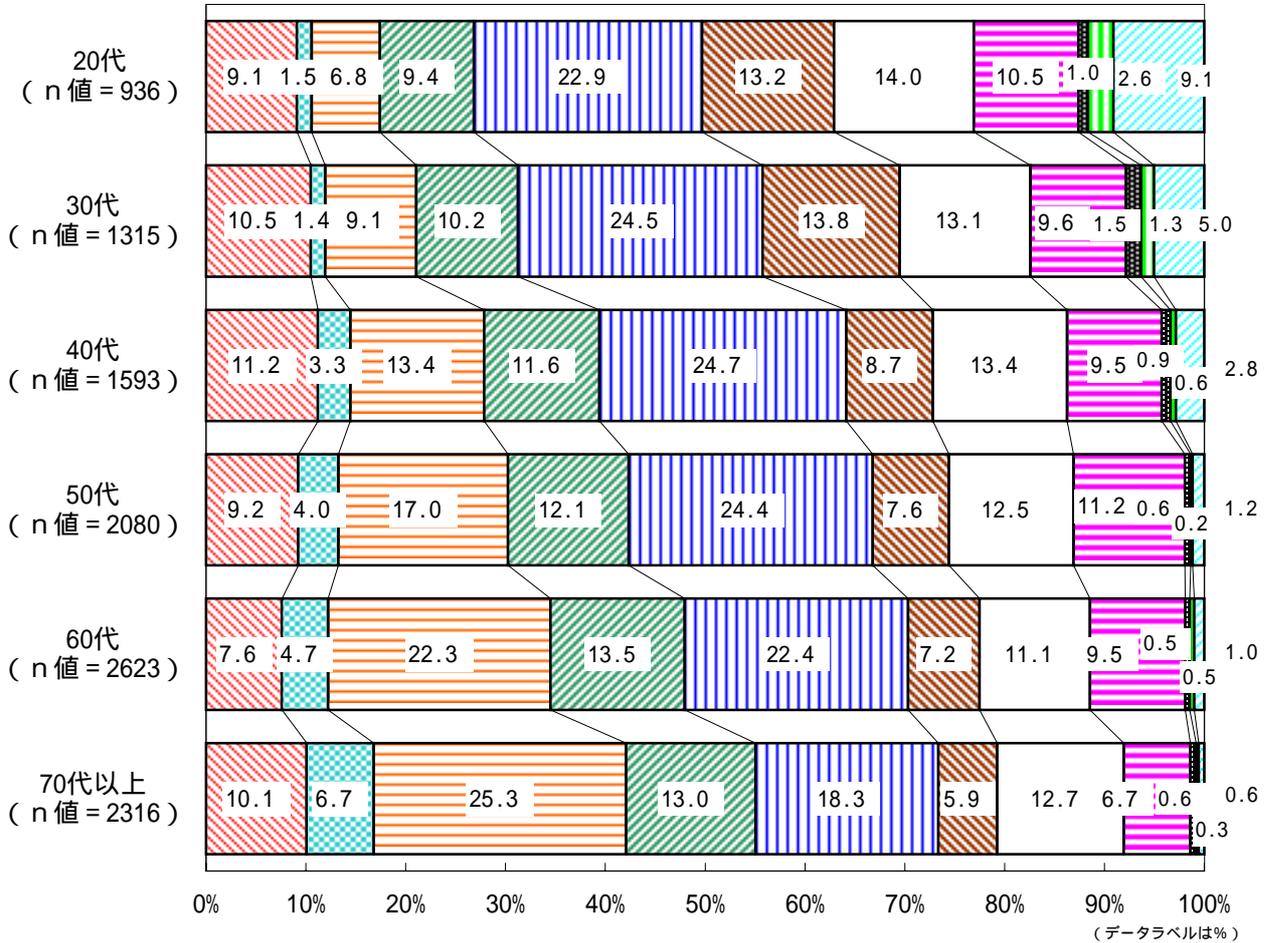
福祉の問題で気がかりなことの相談相手は「県や市町村役場など行政の窓口」が55.4%と最も高く、以下「民生委員・児童委員」（43.5%）、「主治医などの医療関係者」（30.8%）、「社会福祉協議会」（29.6%）などの順となっています。

また、「相談しない」が5.9%となっています。

このことから、民生委員・児童委員が地域の中で重要な存在であることが読み取れ、身近な所へ相談するケースが多いことが伺えます。

〔年齢階層別〕（有効回答数：10,863件）

年齢：問17：福祉の問題で気がかりなことがある場合、家族や友人以外で誰に相談しますか

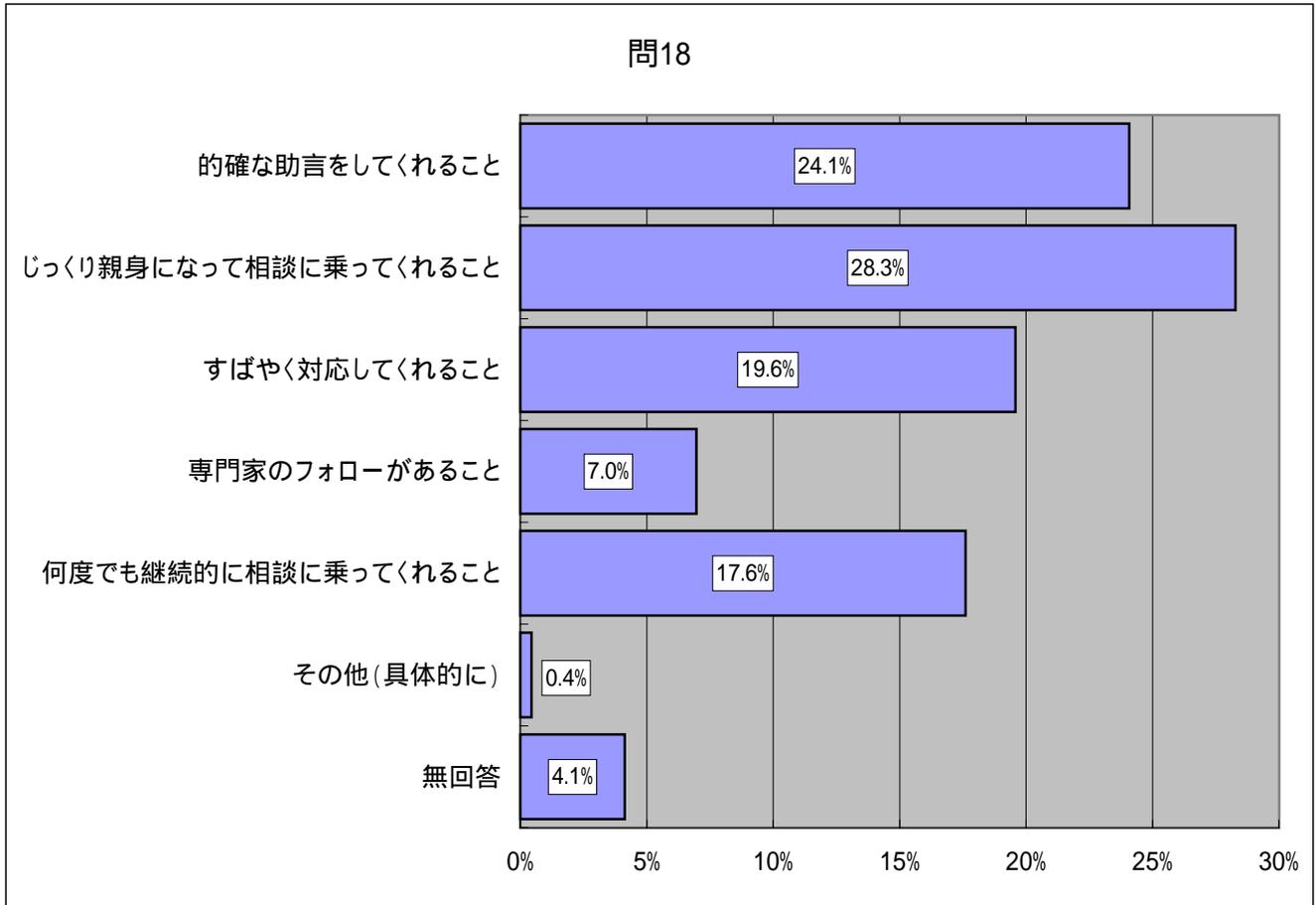


- 近所の人
- 民生委員・児童委員
- 県や市町村役場など行政の窓口
- 自治会長
- 社会福祉協議会
- 高齢者・障害者・子育ての支援センター
- 主治医などの医療関係者
- 福祉施設や福祉サービスの事業者
- NPO団体などの民間団体
- その他（具体的に）
- 相談しない

年齢階層別にみても、年齢階層が上がるにつれ「民生委員・児童委員」へ相談する人が増えている反面、「相談しない」人が少なくなっています。  
また、若い世代では、支援センターへ相談する人が多いことが伺えます。

問18 その相談相手に対して、どのような対応を求めますか（1つだけ）

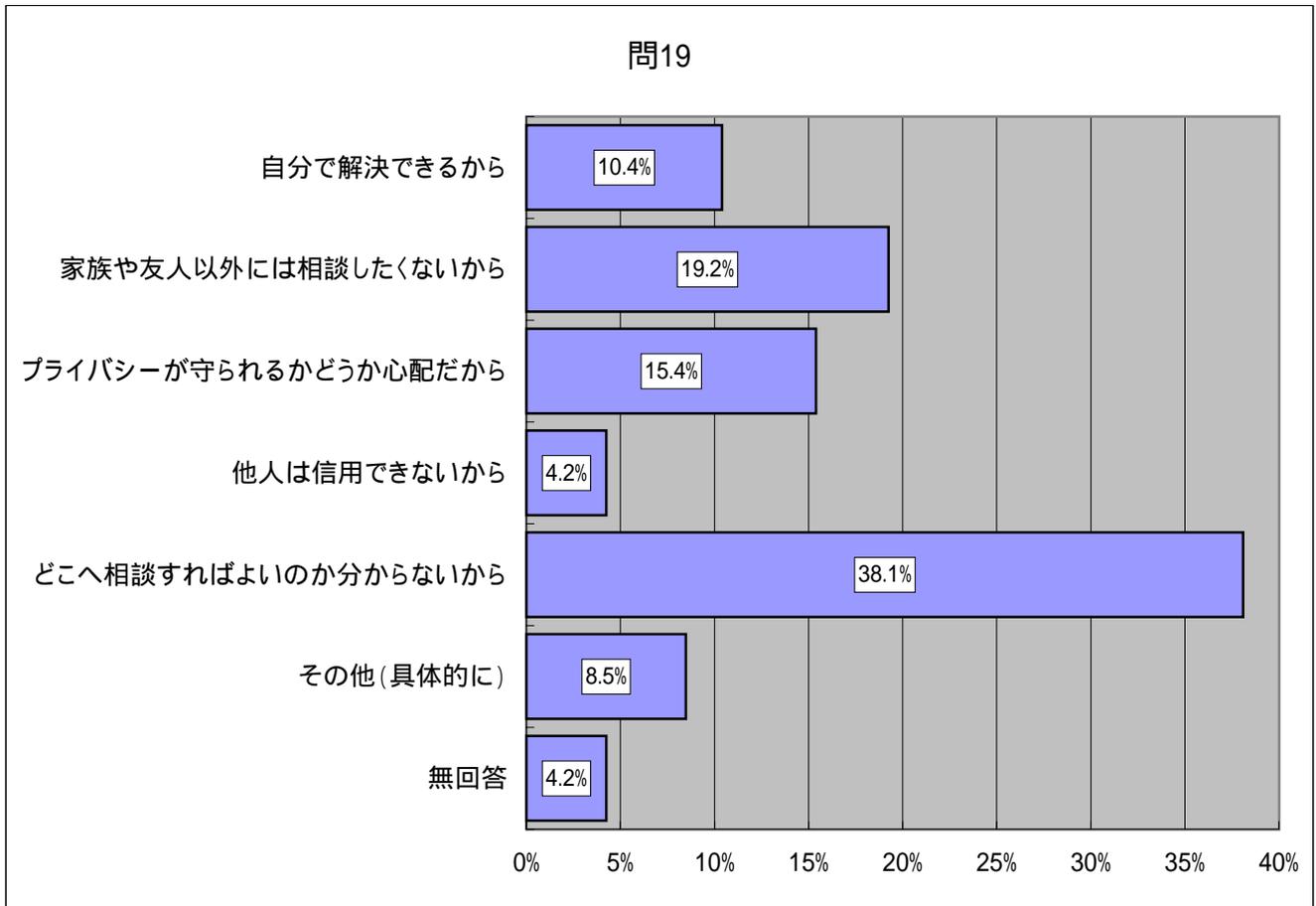
（有効回答者数：4,143人）



相談相手に対する対応は「じっくり親身になって相談に乗ってくれること」が28.3%と最も高く、以下「的確な助言をしてくれること」（24.1%）、「すばやく対応してくれること」（19.6%）、「何度でも継続的に相談に乗ってくれること」（17.6%）などの順となっています。

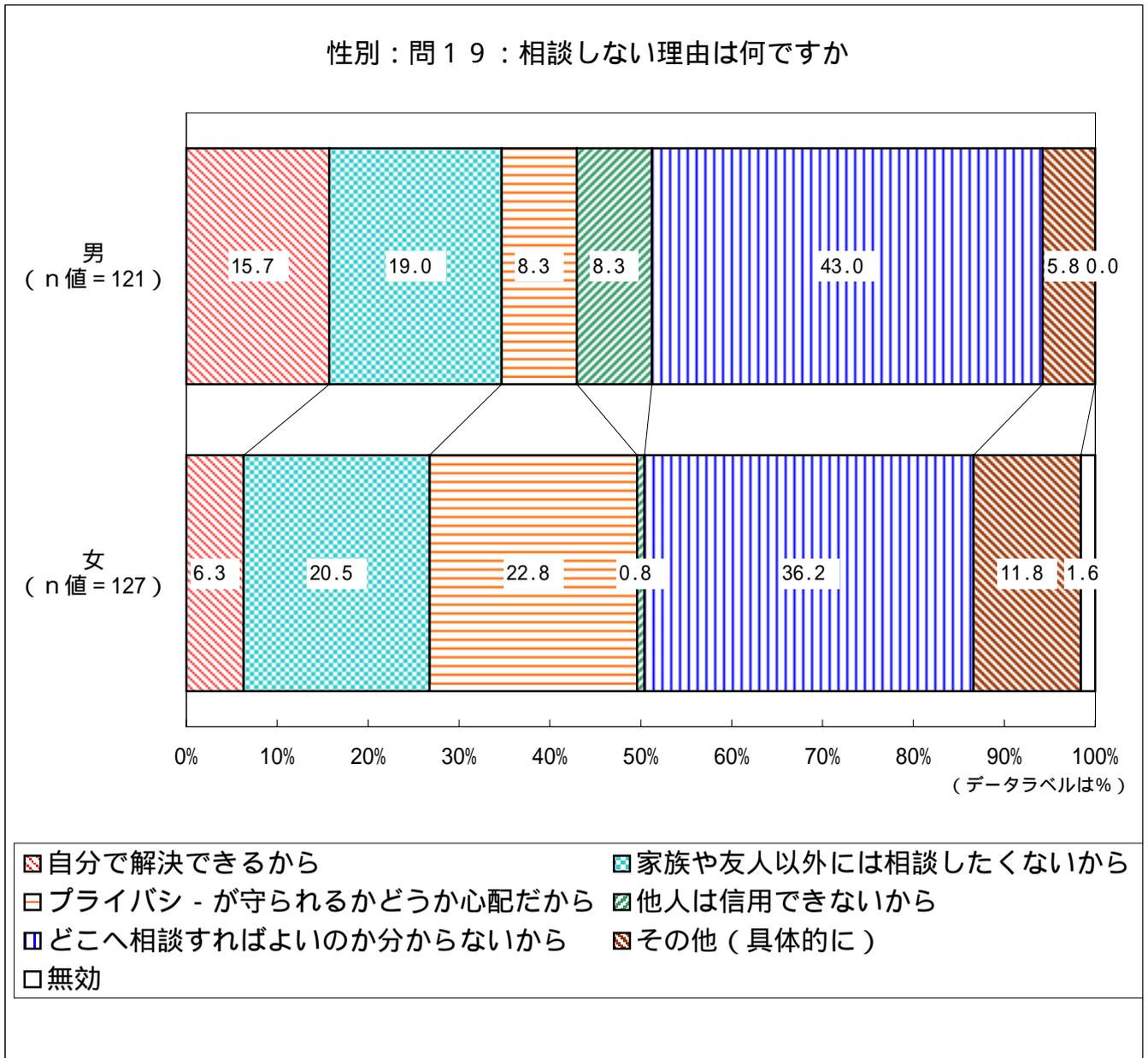
問19 相談しない理由は何ですか（1つだけ）

（有効回答者数：260人）



相談しない理由は「どこへ相談すればよいのか分からないから」が38.1%と最も高く、以下「家族や友人以外には相談したくないから」（19.2%）、「プライバシーが守られるかどうか心配だから」（15.4%）などの順となっています。

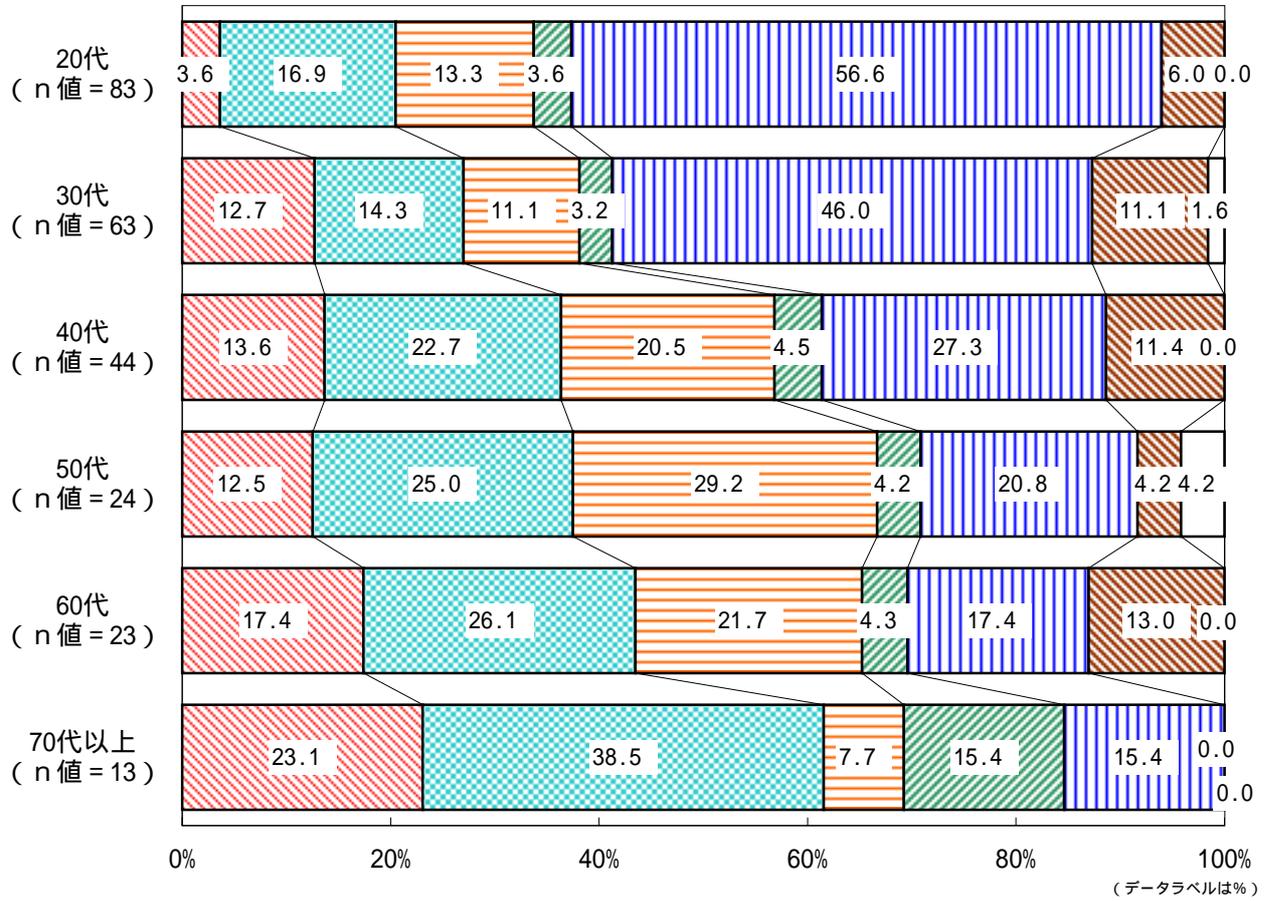
〔性別〕（有効回答数：248件）



性別区分でみると、女性の方がプライバシー - 保護に関心が高いことが伺えます。

〔年齢階層別〕（有効回答数：250件）

年齢：問19：相談しない理由は何ですか

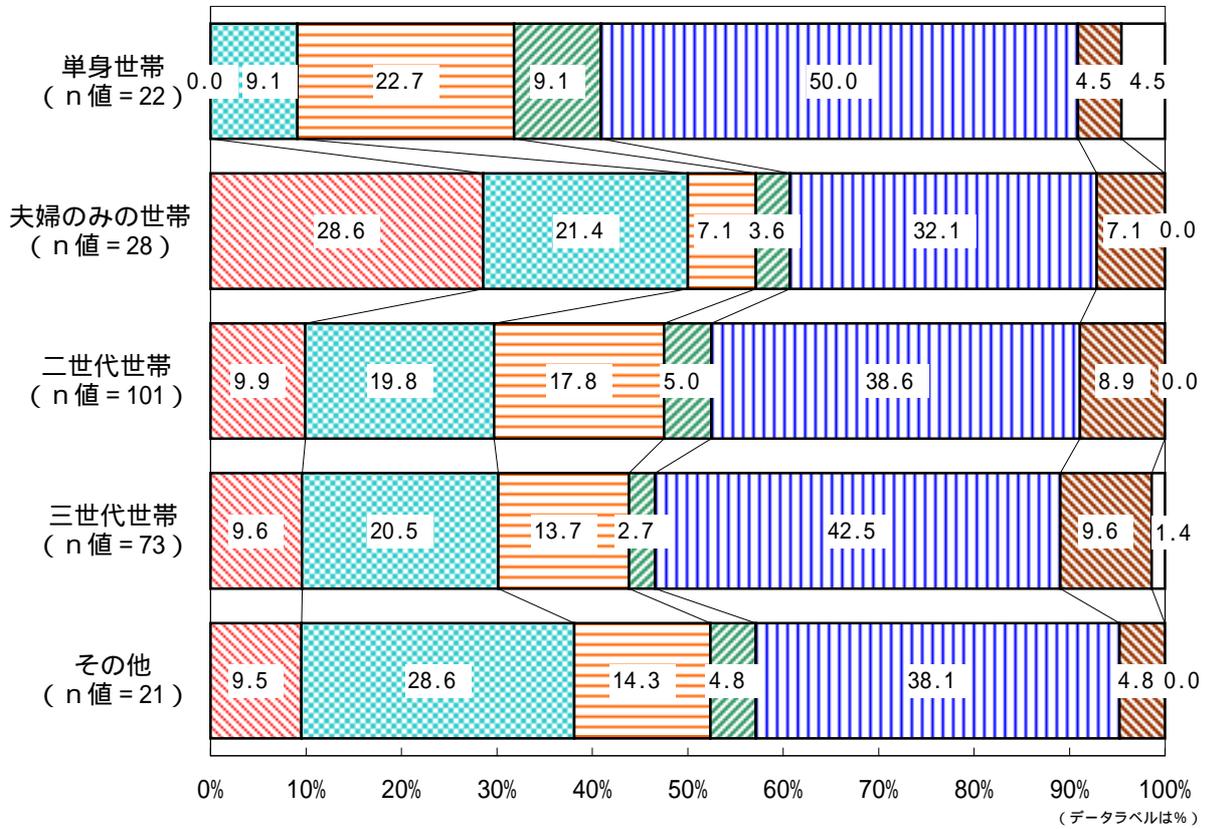


- 自分でも解決できるから
- プライバシーが守られるかどうか心配だから
- どこへ相談すればよいのか分からないから
- 無効
- 家族や友人以外には相談したくないから
- 他人は信用できないから
- その他（具体的に）

年齢階層別にみても、20代、30代では「どこへ相談すればよいのか分からない」が他の年齢階層に比べ高くなっています。  
一方、年齢階層が高くなるに従い「自分でも解決できるから」「家族や友人以外には相談したくないから」が多くなっています。

〔家族構成別〕（有効回答数：245件）

家族構成：問19：相談しない理由は何ですか



- 自分で解決できるから
  家族や友人以外には相談したくないから
- プライバシー - が守られるかどうか心配だから
  他人は信用できないから
- どこへ相談すればよいのか分からないから
  その他（具体的に）
- 無効

家族構成別にみても、単身世帯では半数の人が「どこへ相談すればよいのか分からない」と答えているとともに、「自分で解決できるから」と答えた人がいない結果となっています。